

東日本大震災津波伝承館
いわて TSUNAMI メモリアル

令和5年度取組状況



令和5年11月

目 次

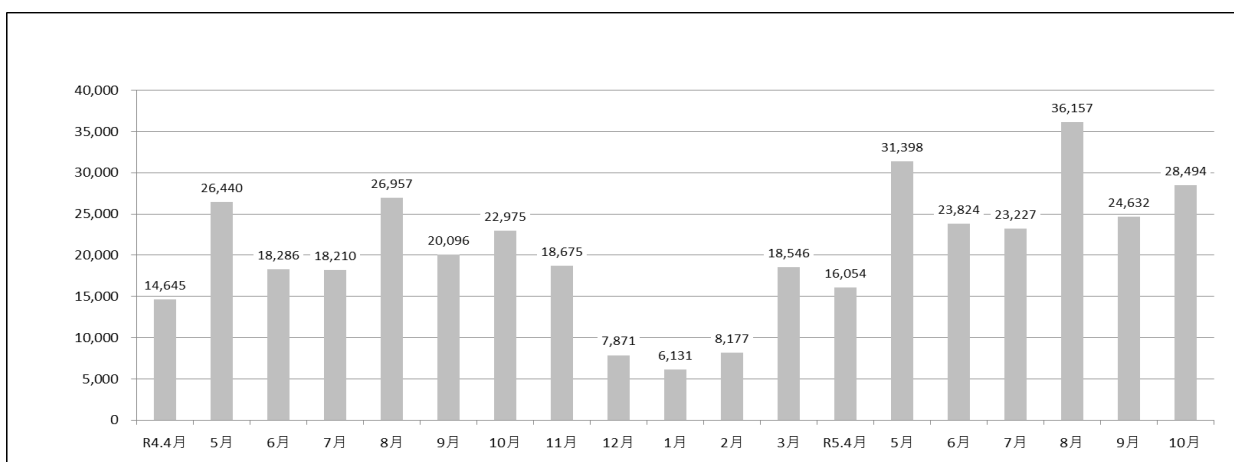
項目	頁
【1】来館者の状況	
1 来館者数の推移	2
2 区分別団体予約の状況	3
3 都道府県別団体予約の状況	4
【2】令和5年度取組状況	
I 展示事業	
1 常設展示の維持管理	5
2 企画展示の開催	5
3 解説員の資質向上	6
4 安全な見学環境の確保	7
II 教育・普及事業	
1 いわてTSUNAMIメモリアルセミナーの開催	8
2 教育・研修旅行の誘致促進	8
3 震災学習プログラムの運用	9
4 オンライン展示解説の実施	9
III 誘客宣伝事業	
1 情報発信	10
2 教育・研修旅行の誘致促進【再掲】	10
3 多様な来館者の誘致促進	10
4 震災伝承施設の広域連携推進（3.11伝承ロード推進機構との連携）	11
IV 交流・連携の推進	
1 多様な主体との連携による震災伝承活動の展開	11
2 他の震災伝承施設・団体等との交流・連携	11
3 大学との連携	12
<参考> 東日本大震災津波伝承館の概要	13

【1】来館者の状況

1 来館者数の推移

- 4月11日に累計70万人、8月11日に累計80万人を達成し、10月31日現在では約88万人となっている。
- ゴールデンウィーク期間(4/29～5/7)には1日平均約1,850人の来館(対前年比103%)があり、5月4日には過去最高の3,513人を記録した。
- 月間来館者数についても、8月にはこれまで最多であった令和元年10月の32,783人を超える36,157人を記録した。
- 6月3日には「第73回全国植樹祭いわて2023」御臨席のため来県された天皇皇后両陛下が、6月20日には「岩手県立大学開学25周年記念式典」御臨席のため来県された彬子女王殿下が、それぞれ当館を御視察された。

【令和4～5年度来館者数（令和5年10月31日現在；累計878,844人）】（単位：人）



【令和5年度月別来館者数及び平均来館者数】（単位：人、日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来館者数(A)	16,054	31,398	23,824	23,227	36,157	24,632	28,494						183,786
開館日数(B)	30	31	27	31	31	30	31						211
平均来館者数(A/B)	535	1,013	882	749	1,166	821	919						871

※1 最多来館者数：3,513人（5月4日（水・祝））

※2 6月2日（金）～4日（日）：全国植樹祭開催により臨時休館

【令和4年度月別来館者数及び平均来館者数】（単位：人、日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来館者数(A)	14,645	26,440	18,286	18,210	26,957	20,096	22,975	18,675	7,871	6,131	8,177	18,546	207,009
開館日数(B)	30	31	30	31	31	30	31	30	28	26	28	31	357
平均来館者数(A/B)	488	853	610	587	870	670	741	623	281	236	292	598	580

※1 最多来館者数：3,352人（5月4日（水・祝））

※2 10月8日（土）：三陸花火競技大会に伴う交通規制の影響により16時閉館

※3 1月24日（火）及び25日（水）：展示装置等保守点検により臨時休館

【令和4～5年度平日及び土日祝日別来館者数（10月末時点比較）】（単位：人、日）

	平日		土日祝日		計	
	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度
来館者数(A)	82,392	106,964	65,217	75,451	147,609	183,786
開館日数(B)	143	144	71	67	214	211
平均来館者数(A/B)	576	743	919	1,126	690	871

2 区分別団体予約の状況

- ・ 学校では、県内は小学校による利用（92件）が多いが、県外は高校による利用（31件）が多い。
- ・ 学校以外では、県外の観光ツアーによる利用（357件）が突出して多い。

【令和5年度 区分別団体予約件数（10月31日現在）】（単位：件、人）

		予約件数			人数		
		県内	県外	計	県内	県外	計
学校	小学校	92	7	99	3,609	202	3,811
	中学校	46	24	70	3,199	2,000	5,199
	高校	27	31	58	1,433	2,067	3,500
	大学	18	13	31	599	280	879
	小計	183	75	258	8,840	4,549	13,389
学校以外	観光ツアー	14	357	371	392	7,824	8,216
	海外（観光含む。）	0	24	24	0	403	403
	地域の団体	101	100	201	2,375	2,055	4,430
	取材・報道	2	0	2	12	0	12
	国（省庁、議員）	7	11	18	55	89	144
	自治体	8	10	18	134	89	223
	議会	1	0	1	10	0	10
	議会（県外）	0	6	6	0	59	59
	県（部局、県議会）	4	0	4	74	0	74
	その他	52	109	161	1,063	2,061	3,124
	小計	189	617	806	4,115	12,580	16,695
合計	372	692	1,064	12,955	17,129	30,084	

※ キャンセルを除く。「その他」には、任意の団体（75件）、法人（58件）等が含まれる。

3 都道府県別団体予約の状況

- ・ 都道府県別でみると、岩手県（372件）が最も多く、次いで東京都（338件）、宮城県（52件）となっている。
- ・ 団体区分別でみると、観光ツアーでは東京都（274件）が最も多く、学校ではいずれも岩手県が多い。

【令和5年度都道府県別団体予約件数（10月31日現在）】（単位：件、人）

	予約件数	人数		予約件数	人数		予約件数	人数	
北海道	9	340	石川県	1	20	岡山県	1	36	
青森県	22	529	福井県	4	251	広島県	1	30	
岩手県	372	12,955	山梨県	0	0	山口県	0	0	
宮城県	52	1,336	長野県	6	240	徳島県	1	2	
秋田県	19	320	岐阜県	5	85	香川県	0	0	
山形県	19	424	静岡県	11	390	愛媛県	3	37	
福島県	14	252	愛知県	44	528	高知県	2	68	
茨城県	16	422	三重県	2	29	福岡県	4	139	
栃木県	2	42	滋賀県	2	55	佐賀県	0	0	
群馬県	5	98	京都府	4	48	長崎県	2	48	
埼玉県	5	100	大阪府	33	772	熊本県	2	31	
千葉県	5	202	兵庫県	2	20	大分県	1	16	
東京都	338	8,526	奈良県	1	4	宮崎県	1	30	
神奈川県	14	710	和歌山県	1	15	鹿児島県	3	44	
新潟県	7	379	鳥取県	0	0	沖縄県	4	108	
富山県	0	0	島根県	0	0	海外	24	403	
							計	1,064	30,084

【令和5年度都道府県・区分別団体予約件数（10月31日現在）】（単位：件）

	観光ツアー		小学校		中学校		高校	
	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数
1	東京都	274	岩手県	92	岩手県	46	岩手県	27
2	愛知県	25	山形県	4	宮城県	5	東京都	10
3	大阪府	25	東京都	2	北海道	3	千葉県	4
4	岩手県	14	福島県	1	神奈川県	3	北海道	3
5	その他	33			その他	13	その他	14
	計	371	計	99	計	70	計	58

【2】令和5年度取組状況

I 展示事業

基本的な感染症対策を継続するとともに、常設展示、解説員による展示解説及び企画展示を通じて、来館者に効果的な学びの場を提供している。

1 常設展示の維持管理

次のとおり修繕等を行うなど、展示機器の維持管理に努めている。

- ・ ゾーン3「犠牲者の軌跡」パネルを傷のつきにくい素材に張替え（5月）
- ・ 「いわて震災津波アーカイブ～希望～」及び「東日本大震災アーカイブ（証言WEBドキュメント）」について、リンク元のホームページ改修に伴う表示の不都合を修正（8月）


※ ゾーン3「3-2 命を守る・支える 東日本大震災津波発災からの記録 震災後5年間」について、震災後10年間の内容に更新作業中（年度内に完了予定）

2 企画展示の開催

(1) 当館主催及び関係団体との共催による企画展示を次のとおり実施している。

	主	共	展示内容・期間等
1		①	<p>第1回「つなみ対策の歩み」 (6/17～7/17)</p> <p>今年で発災90年となる昭和三陸地震津波を契機として、現在につながるつなみ対策の変遷と岩手県沿岸各地の事例を紹介することで、三陸の地震津波の歴史を理解するとともに、防災への意識を高める機会を提供した。</p> <p>(監修協力：東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授)</p>
2		①	<p>写真展「被災から10年—UIFA JAPONの見た岩泉町復興への歩み」 (7/1～7/23、UIFA JAPONとの共催)</p> <p>被災から復興へと歩み続ける人々、その中からこぼれてくる希望、喜びや連帯意識、郷土への誇り、女性たちの活躍の力強さ、男性と女性が共同して復興の歩みを進めることの大切さなど、10年の記録を紹介した。</p>
3		②	<p>第2回「災害時の情報伝達の役割」 (9/21～10/22)</p> <p>東日本大震災津波時における情報通信インフラの寸断による影響（何が起きているかわからない、安否の確認等）と復旧までの取組、その後の対策を再認識するとともに、災害時の情報通信確保のあり方を確認する機会を提供した。</p> <p>(監修協力：東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授)</p>



4	②	<p>パネル展「東日本大震災津波における情報通信インフラ被害とその後の災害対策」 (10/13～10/22、NTTドコモ東北と共催)</p> <p>第2回企画展示と連携し、東日本大震災津波における情報通信インフラの寸断と復旧までの取組、東日本大震災津波を踏まえた新たな災害対策についての具体事例を紹介した。</p>	
---	---	--	---

※ 今後の予定

第3回企画展示（1月、展示テーマ未定）


第4回企画展示（3月、展示テーマ未定）

- (2) 関係機関・団体に企画展示制作物（過去の企画展示において制作した展示ポスター等）の貸出しを行うことで、展示内容の広域かつ継続的な発信・活用を図っている。

催事名・相手方	貸し出した展示制作物	貸出期間
岩手県立図書館4階展示 (岩手県立図書館)	令和2年度第2回企画展示ポスター 「解説 東日本大震災津波の時間経過」 令和3年度第2回企画展示ポスター 「三大震災の事実と教訓」、	5/25～9/7
三陸ジオパークフェスタ ～Hike MGT! and Enjoy GEOPARK～ (三陸ジオパーク推進協議会)	令和3年度第1回企画展示ポスター 「東日本大震災津波と三陸ジオパーク」	8/5～8/7
岩手県の避難所展 (一社)おはなしころりん)	令和4年度第3回企画展示ポスター 「岩手県の避難所」	10/20～11/2

3 解説員の資質向上

年2回程度の集合研修のほか、他の震災伝承施設の見学研修等を通じ、東日本大震災津波の事実や他の伝承団体・施設について認識を深め、解説員の資質向上を図っている。

4/3	<p>地域の伝承施設見学 陸前高田仮設住宅体験館、陸前高田グローバルキャンパス、普門寺（二度と散らない願い桜）</p>	
6/2	<p>集合研修 震災や津波、その他自然災害に係る最新の知見 （講師：東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授）</p>	

※ 今後の予定

解説研修（基礎・実務・実技、1/16～17）

一般接遇研修（接遇とコミュニケーションスキル・障がい者対応）、救命救急研修

外国語解説研修（日程未定）

4 安全な見学環境の確保

(1) 災害発生時における来館者及び職員の安全の確保

各種訓練を次のとおり実施した。

転入職員津波避難訓練（4/3）

令和5年度に当館へ配属となった職員が、徒歩で指定緊急避難場所である気仙小学校までの避難ルートを確認した。

参加機関：当館

参加者数：4名



津波避難訓練（11/5）

市の防災訓練に合わせ、地震・津波を想定した避難誘導訓練を実施した。

参加機関：陸前高田市、道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、当館、来場者（名古屋市防災危機管理局職員ほか）

参加者数：関係者20名、来場者約35名



※ 今後の予定

火災避難訓練（12月）

参加機関：道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、当館

津波避難訓練（1月）

参加機関：当館

(2) 新型コロナウイルスの感染拡大防止

マスクの着用、手指の洗浄・消毒を推奨するなど、館運営における基本的な感染拡大防止策を継続している。



新型コロナウイルス感染症対策の取組状況

職員のマスク着用、手指消毒用アルコールの設置、空調設備による常時換気

II 教育・普及事業

1 いわてTSUNAMIメモリアルセミナーの開催

東日本大震災津波の事実と教訓や三陸復興の姿について学び、体験し、交流する機会として、一般来館者等を対象とする「いわてTSUNAMIメモリアルセミナー」を、震災伝承に関わる学識者や関係団体と連携して開催している。

6/17, 18, 24, 25	<p>「学ぶをまなぶ、伝承館。」</p> <p>紙芝居の読み聞かせ、避難所で使える新聞紙スリッパづくり、ゲームやクイズを通じて楽しく防災を学ぶイベントを開催 (91名参加)</p>	
9/2, 3	<p>「45分でわかる！展示解説」</p> <p>防災週間に合わせ、防災に対する意識向上の機会とするため、解説予約なしで来館した人を対象に、解説員による「45分の展示解説」を実施 (3回実施、47名参加)</p>	

2 教育・研修旅行の誘致促進

(1) 震災・防災学習現地研修会の開催

修学旅行及び校外学習での利用促進を図るため、県立野外活動センターとの共催により、県内の教員（小・中・高・特別支援学校等）に震災・防災学習プログラムを紹介する現地研修会を開催した。



日 程：7月27日、28日

内 容：県立野外活動センターの研修プログラムの説明及び体験、高田松原津波復興祈念公園パークガイドによる震災遺構の見学、当館の解説見学及び見学コースの紹介（同内容を2日間実施）

参加者数：23名（7/27：12名、7/28：11名）

(2) 県外からの誘致促進

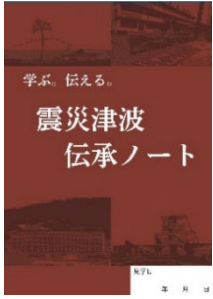
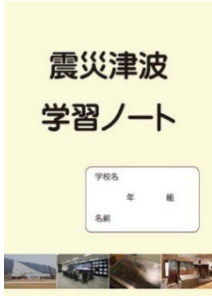
- ・ 岩手県観光協会が実施する県外での教育旅行説明会において、「岩手県教育旅行ガイドブック」掲載を通じて誘致PRを行っている。（8/10 札幌市、8/25 東京都、11/28 大阪市（予定））
- ・ 三陸DMOセンター、県北広域振興局及び沿岸広域振興局が共同出展した「ツーリズムEXPOジャパン」（10/26～29、大阪市）において、当館の教育旅行誘致に係る資料配布を行った。

(3) 県内学校の誘致促進

- ・ 第2回県立学校長会議（10/5）において学校向け当館利用案内リーフレットを配付した。
- ・ 各地区の復興教育研修会（8/4：沿岸南部、8/30：中部、9/6：県南、11/29（予定）：盛岡）において学校向け当館利用案内リーフレットを配付するとともに、来年度以降の同研修会等での説明に向けた打合せを行うため、今後、各教育事務所を訪問する予定。

3 震災学習プログラムの運用（校種等に対応した教材の作成と活用）

学校のニーズに対応した展示解説を行うほか、予習・復習に対応した震災学習教材（震災学習ノート・震災伝承ノート）を配付している。

	震災津波伝承ノート (中高校生用)	震災津波学習ノート (小学生用)
表紙		
配付実績	延べ64校、5,190部	延べ73校、3,745部

4 オンライン展示解説の実施

コロナ禍への対応及び来館が難しい遠隔地の学校・団体等に向けた新たな震災伝承スタイルを模索するため、関係機関と連携してオンラインでの展示解説を実施している。

	開催時期	依頼者	摘要
1	4/21	県復興推進課	県庁を訪問した総務省財政課長に対する本県復興状況説明の中で当館の展示内容を説明
2	10/5	THE SUNTORY UNION	当地を訪問する労働組合員の事前研修の中で当館の展示内容を説明

※ 今後の予定

岩手県立葛巻高校（時期未定）

ローカル5G等を活用した地域課題解決支援事業（県科学・情報政策室）

名古屋市内の小中学校（時期未定）

名古屋市との連携・交流事業（陸前高田市）

Ⅲ 誘客宣伝事業

1 情報発信

(1) 報道機関への情報提供によるパブリシティ

大船渡記者クラブ等への情報提供を通じて、県内向け報道の充実を図っている。

(2) ホームページ・SNSを活用した情報発信

- 公式ホームページにより総合的な情報発信を行うとともに、X（旧Twitter）等を活用して当館及び周辺の日々の出来事等について積極的に発信している。

【媒体別のフォロワー数】

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
X（旧Twitter）	1,202	2,024	2,490	3,062	3,295
Instagram	527	1,071	1,260	1,406	1,473
Facebook	650	838	960	1,081	1,119

※ R 1～4：年度末の数値、R 5：11月14日現在の数値

- X（旧Twitter）を活用し、適宜外国語（中国語繁体字、韓国語）で情報を発信している。

2 教育旅行・校外学習の誘致促進【再掲】

3 多様な来館者の誘致促進

(1) 高田松原津波復興祈念公園における切れ目のない見学環境の整備

- 教育旅行情報交換会（事務局：陸前高田市観光物産協会、4/4・7/25・11/10）を通じて、市内の教育旅行受入関係団体等との定期的な情報交換を行っている。
- 高田松原津波復興祈念公園パークガイドを始め、近隣の施設・サービスと連携し、園内における切れ目のない見学環境の充実を図るため、県立野外活動センターや陸前高田市観光物産協会、（一社）マルゴト陸前高田等との情報共有・意見交換を随時行っている。

(2) 旅行会社等と連携した誘客促進

- 三陸DMOセンター担当者ミーティング（4/18）を通じて情報交換を行った。
- 県観光・プロモーション室、三陸DMOセンター等関係機関が実施する、旅行会社の商品造成企画担当者を招聘する下見旅行（FAMツアー）を受け入れている。

5/11	県観光・プロモーション室	台湾旅行会社・メディア招聘（台湾、23名）
8/31	（一財）3.11伝承ロード推進機構	旅行事業者モニターツアー（仙台地区、5名）
9/16	（一財）3.11伝承ロード推進機構	台湾教育旅行招聘事業（台湾、8名）

(3) 外国人旅行者等への対応

- 今年度は、外国人旅行者の個人・グループでの来館が増加しており、英語、中国語対応の解説員が個別に対応するよう努めている。
- X（旧Twitter）を活用し、適宜外国語（中国語繁体字、韓国語）で情報を発信している。【再掲】

4 震災伝承施設の広域連携推進（3.11伝承ロード推進機構との連携）

エントランスに3.11伝承ロードマップを整備し、パンフレット（3.11伝承ロード全体版、岩手県版）を配架している。

また、同機構が主催する見学ツアーを受け入れている。

1	5/12	(一財)日本橋梁調査会 (42名)
2	5/19	ニュージャパンコンサルタンツ(株) (26名)
3	6/10	陸奥テックコンサルタント(株) (16名)
4	6/22	復興庁 (20名)
5	6/23	(一財)国土技術研究センター (21名)
6	6/28	(株)ティーネットジャパン (19名)
7	7/20	(一社)日本建設業連合会関東支部 (17名)
8	7/24	(一社)道路建設業協会 (3名)
9	9/5	(一社)日本建設機械施工協会東北支部 (3名)
10	9/21	(一財)国土技術研究センター (JICE) (17名)
11	9/27	瀧上工業(株) (19名)
12	9/28	みちのくコンサルタント(株) (7名)
13	10/12	(一社)北陸地域づくり協会 (38名)
14	11/21	(一社)日本橋梁建設協会 (32名)

IV 交流・連携の推進

1 多様な主体との連携による震災伝承活動の展開

県内外の機関・団体による震災伝承活動等を共催・後援するほか、企画展示制作物（過去の企画展示において制作した展示ポスター等）の貸出しを実施している。

※ 再掲

催事名・相手方	貸し出した展示制作物	貸出期間
岩手県立図書館4階展示 (岩手県立図書館)	令和2年度第2回企画展示ポスター 「解説 東日本大震災津波の時間経過」 令和3年度第2回企画展示ポスター 「三大震災の事実と教訓」、	5/25～9/7
三陸ジオパークフェスタ ～Hike MCT! and Enjoy GEOPARK～ (三陸ジオパーク推進協議会)	令和3年度第1回企画展示ポスター 「東日本大震災津波と三陸ジオパーク」	8/5～8/7
岩手県の避難所展 (一社)おはなしころりん)	令和4年度第3回企画展示ポスター 「岩手県の避難所」	10/20～11/2

2 他の震災伝承施設・団体等との交流・連携

(1) 名古屋市との連携交流（通年）

- 陸前高田市と名古屋市との連携交流事業の一環として、名古屋市職員や市民に対して当館の展示解説を実施している。

また、11月5日に実施した津波避難訓練に、陸前高田市を訪問中の名古屋市民交流団24名に参加いただいた。

- 名古屋市の小中学校へのオンライン展示解説を実施する予定。【再掲】

(2) 三陸ジオパーク推進協議会との連携（通年）

- ・ 7月10日に「東日本大震災津波の事実・教訓の伝承に関すること」「復興情報の発信に関すること」などについて連携・協力し、三陸地域の活性化と持続的な発展に寄与することを目的として連携協定を締結した。
- ・ 同協議会主催イベント（8月）に当館企画展示ポスターを貸し出すとともに、当館エントランスで同協議会刊行物（パンフレット、イベントチラシ等）を配架している。

(3) 岩手県立図書館との連携（通年）

- ・ 同館における展示（5～9月）のため、当館企画展示ポスターを貸し出した。

【再掲】

- ・ 同館が11月3日に開設した、震災・防災等の学び合いスペース「I-ルーム」の活用に向けた今後の連携について意見交換を行った。（10/10）

(4) 海外津波博物館との交流（11/19）

県復興推進課所管事業により来県したインドネシア・アチェ津波博物館長等との交流を行うとともに、上記事業に出席したアチェの高校生及び岩手県立釜石高校「夢団」生徒の事前学習を行った。

(5) 熊本地震震災ミュージアムKIOKUとの連携

7月15日に開館した同施設とパンフレットの相互配架を行っている。

3 大学との連携

(1) 館の運営に関する指導・助言

- ・ 展示全般についての指導・助言（岩手大学理工学部 南教授）
- ・ 企画展示の監修、館内展示についての指導・助言（東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授）

(2) 岩手県立大学との連携

- ・ 同大学が4月に設立した防災復興支援センターとの今後の連携に向けた意見交換の実施（9/8, 10/19）
- ・ 同大学の校外学習の受入れ（11/25（予定））

<参考> 東日本大震災津波伝承館の概要

1 施設の概要

(1) 名称	東日本大震災津波伝承館
(2) 愛称	いわて つなみ メモリアル
(3) 設置場所	陸前高田市気仙町字土手影180番地（高田松原津波復興祈念公園内）
(4) 規模・構造	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積（2階含む）7,079㎡のうち展示面積1,155㎡
(5) 開館年月日	令和元年9月22日（日）
(6) 開館時間	9時から17時まで（最終入館時刻16時30分）
(7) 休館日	12月29日から翌年1月3日まで 施設メンテナンスのため必要となる日（概ね年4日程度）
(8) 入館料	無料

2 設置目的（東日本大震災津波伝承館条例）

- (1) 東日本大震災津波の教訓の伝承（第1条）
- (2) 東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況の国内外への発信（第1条）
- (3) 復興支援に対する感謝の発信（条例前文）

3 ミッション・ステートメント（施設の基本理念；平成30年1月9日決定）

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

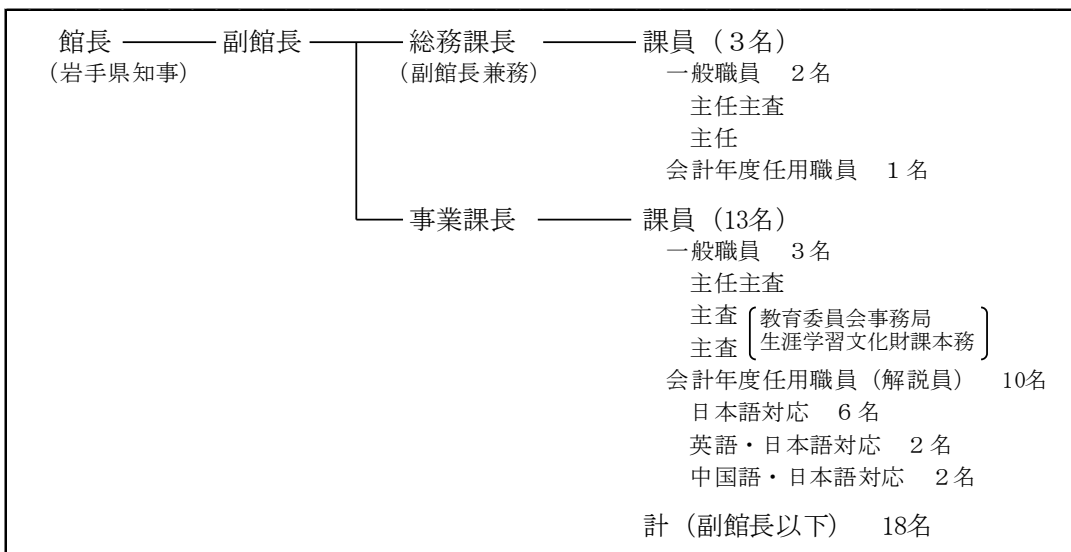
しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

※ ミッションステートメント：来館者に向けて、施設の基本理念を表明することにより、展示及び事業運営の指針を明確に示し、訴求力を高めようとするもの。

4 組織体制（令和5年4月1日現在）



5 「いわて県民計画（2019～2028）」における位置付け

「復興推進プラン」の4本の柱「未来のための伝承・発信」のもと、事実・教訓の伝承へ取り組んでいく。

【第2期アクションプラン 復興推進プラン（2023年度～2026年度）】

IV 未来のための伝承・発信（抜粋）

1 事実・教訓の伝承

多くの尊い命を奪った東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために、「東日本大震災津波を語り継ぐ日条例」の趣旨にのっとり、未曾有の大規模災害の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を風化させることなく確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

また、震災の事実と教訓を世界中の人々と共有して震災への関心の低下を防ぎ、自然災害に強い社会を実現することを目指します。

取組項目22 教訓を伝承する仕組みづくりを推進します

① 東日本大震災津波伝承館を拠点とした事実・教訓の伝承の推進

- ・ 東日本大震災津波伝承館において、来館者への震災学習教材の配付や遠隔地からのオンライン見学の活用等により、展示内容の理解促進を図ります。
- ・ 東日本大震災津波伝承館において、県内外の震災伝承施設等と連携した企画展示を実施するとともに、企画展示と連動したセミナーを開催します。
- ・ 県内外の学校に対し、東日本大震災津波の事実と教訓の伝承を図るため、東日本大震災津波伝承館における教員現地研修会等の開催や、震災学習を中心とした教育旅行等の誘致活動を展開します。
- ・ 県内外の大学と連携し、東日本大震災津波伝承館における効果的な伝承・発信を実施するとともに、防災文化の醸成と継承を図ります。
- ・ 海外津波博物館との交流機会を確保し、東日本大震災津波の事実と教訓を伝承しながら、国内外の防災力向上に貢献します。

令和5年11月作成

東日本大震災津波伝承館（愛称：いわて^{つなみ}TSUNAMIメモリアル）

所在地：〒029-2204 岩手県陸前高田市気仙町字土手影180番地
（高田松原津波復興祈念公園内）

電話：0192-47-4455

FAX：0192-47-4466

URL：<https://iwate-tsunami-memorial.jp>